

商工会議所LOBO（早期景気観測）

-2019年1月調査結果-

調査概要

- 調査期間 2019年1月16日～31日
- 調査対象 200社
- 回答企業 110社
- 回収率 55.0%

※DI値（景気判断指数）について

DI値は、売上・採算・業況などの各項目についての判断の状況を表す。

ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

なお、従業員の項目については、DI値ゼロを基準として、プラス値は人員不足感を表し、マイナス値は人員過剰感を表している。

DI値 = (増加・好転などの企業割合) - (減少・悪化などの企業割合)

業況・採算：(好転) - (悪化) / 売上：(増加) - (減少) / 従業員：(不足) - (過剰)

旭川市概況

※全産業の1月の状況を見ると業況DIは、前月より3.4ポイント悪化の▲24.5となった。

2017年9月以来17ヶ月連続でマイナス水準を推移している。

※向こう3か月の全産業における、先行き見通し業況DIは▲30.0、当月に比べ5.5ポイントの悪化を見込んでいる。

旭川市全産業 DI 値（前年同月比）の推移

	2018年 8月	9月	10月	11月	12月	2019年 1月	先行き見通し 2019年2月～ 4月
業況	▲19.4	▲30.9	▲34.2	▲21.6	▲21.1	▲24.5	▲30.0
売上	▲12.8	▲25.2	▲20.7	▲7.2	▲9.2	▲21.8	▲27.5
採算	▲21.1	▲31.5	▲25.2	▲21.6	▲12.8	▲23.6	▲27.2
仕入単価	▲42.6	▲38.7	▲43.7	▲43.2	▲30.2	▲36.4	▲32.8
従業員	32.4	27.9	33.3	32.4	31.2	27.5	30.0
資金繰り	▲6.5	▲7.2	▲9.9	▲9.9	▲7.3	▲10.0	▲13.7

旭川市産業別業況DI値（前年同月比）の推移

	2018年 8月	9月	10月	11月	12月	2019年 1月	先行き見通し 2019年2月～ 4月
建設	▲30.8	▲34.6	▲51.9	▲33.3	▲20.0	▲34.7	▲30.8
製造	▲30.8	▲26.9	▲25.0	▲16.0	▲37.5	▲32.0	▲40.0
卸売	0.0	▲33.3	▲15.0	▲5.3	▲17.4	▲26.1	▲30.4
小売	▲11.7	▲17.6	▲25.0	▲29.4	▲5.5	▲16.7	▲22.2
サービス	▲15.0	▲40.0	▲50.0	▲20.0	▲21.1	▲5.5	▲22.2

今月のトピックス（業界の声・経営上の問題点）

建設業	・工事受注量の減少、資機材価格の高騰に伴う採算の悪化(総合工事) ・従業員不足及び高年齢化(総合工事) ・旭川市の財政は相当厳しいようだが、庁内人件費は計画通りに増加され業務委託費は削減となっている。この状況が今後どうなるのか。(設備その他) ・一日も早く現場が再開されればと思っている。今後も人手不足が続くことが予想されることから、週2日の休みを見直すことも必要と考えている。(建築業)
製造業	・従業員は充足しているが、高齢化が進み対策が急務(食料品) ・原材料(紙)の値上げ(20%)があり、これからユーザーに上昇分を転嫁していけるかが問題である(印刷出版) ・用紙と資材(ダンボール等)の値上げが始まり、販売価格に転嫁しなければならない(印刷出版) ・当社主要資材のアルミの仕入価格がやっと上げ止まったが、鋼材、ステンレス材は依然上げ止まらない。製造品の市場はあまり動きが無く低調。(金属窯業他)
卸売業	・土木工事に係る現場作業員の確保及び下請業者の確保(機械鋼材等) ・灯油の仕入価格は小幅な動きがあったものの、当面は現在の水準が続くものと思われる。よって販売価格も大きな変動は無い(その他) ・働き方改革による実質的な労働時間の減少が今後会社売上にどのような影響があるのか見極めの最中(その他)
小売業	・新年1月2日が初売でありウインターセール初日だったが、近年旭川市内の大型SHOPは元旦が初売のため、客足が伸びずフリー客の来店及び売上が全く無かった。帰省客(顧客)の売上でカバーしたいと考えている。(衣服身回品) ・売上は前年比微増ではあるが増加。反面、運送会社各社の運賃値上げ及び包装資材原料費の増加もあり販売管理費が増加。今後は販売管理費の増加分を吸収するための販売戦略の策定が課題(食料品) ・仕入包材単価上昇(食料品) ・従業員不足が続いている(その他)
サービス業	・スキー客、外国人観光客が増加し残業が続いている。業績は好調だが人手不足で困っている(理美容クリーニング) ・インバウンド・ビジネス需要が好調で、売上は前年プラスの状況。しかし経費面(光熱費等)の増加で全体的には前年並の採算予測(ホテル・旅館) ・正月が明け客足が遠のいている(飲食) ・車の事故修理が減少している。(整備) ・自社も業界も異常な乗務員不足により通常事業も困難な状況(運送)

旭川市の産業別概況

産業	概況
建設業	売上 DI18.8 ポイント悪化、採算 DI18.6 ポイント悪化、仕入単価 DI6.6 ポイント悪化、資金 DI4.2 ポイント悪化、従業員 DI12.0 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 14.7 ポイント悪化となった。業種別では、建築横ばい、総合工事 11 ポイント、設備・その他 22 ポイント悪化となった。一日も早く現場が再開されればと思っている。今後も人手不足が続くことが予想されることから、週 2 日の休みを見直すことも必要と考えているとの声も寄せられている。
製造業	売上 DI3.6 ポイント悪化、採算 DI5.1 ポイント改善、仕入単価 DI10.4 ポイント悪化、資金 DI8.5 ポイント改善、従業員 DI4.7 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 5.5 ポイント改善となった。業種別では、印刷・出版 7 ポイント悪化、食料品 5 ポイント、家具・木材 20 ポイント、金属窯業他 17 ポイント改善となった。消費増税を見込んだ需要増は見られないとの声も寄せられている。
卸売業	売上 DI13.1 ポイント悪化、採算 DI8.8 ポイント悪化、仕入単価 DI4.4 ポイント改善、資金 DI8.7 ポイント悪化、従業員 DI 横ばい。総じて業況 DI は 8.7 ポイント悪化となった。業種別では、食料品 7 ポイント、その他 2 ポイント改善、繊維・衣服等 50 ポイント、機械鋼材 40 ポイント悪化となった。土木工事の現場作業員の確保及び下請業者の確保との声も寄せられている。
小売業	売上 DI27.8 ポイント悪化、採算 DI33.3 ポイント悪化、仕入単価 DI27.8 ポイント悪化、資金 DI11.1 ポイント悪化、従業員 DI5.5 ポイント増加し不足感が高まった。総じて業況 DI は 11.2 ポイント悪化となった。業種別では、自動車横ばい、衣料品 8 ポイント、食料品 20 ポイント、その他 20 ポイント悪化となった。新年 1 月 2 日が初売でありウインターセール初日だったが、近年旭川市内の大型 SHOP は元旦が初売のため、客足が伸びずフリー客の来店及び売上が全く無いとの声も寄せられている。
サービス業	売上 DI0.6 ポイント悪化、採算 DI0.8 ポイント悪化、仕入単価 DI8.8 ポイント改善、資金 DI11.4 ポイント悪化、従業員 DI2.3 ポイント減少し不足感が弱まった。総じて業況 DI は 15.6 ポイント改善となった。業種別では、飲食 33 ポイント悪化、理美容・クリーニング、その他横ばい、ホテル・旅館 40 ポイント、整備業 33 ポイント、運送 67 ポイント改善となった。少しずつ外国人観光客が増えてきたように思うとの声も寄せられている。